

輝く功績 喜び

秋の叙勲 県ゆかりの受章者

2025年秋の叙勲で、さまざまな分野で顕著な功績が認められた県内、県ゆかりの受章者たち。旭日中綬章に輝いた日本画家の土屋禮一さん(79)＝東京都国分寺市＝、旭日小綬章を受けた元県歯科医師会長の阿部義和さん(76)＝恵那市＝と日本病院寝具協会理事長の小野木孝二さん(70)＝岐阜市＝と元岐阜信用金庫理事長の住田裕綱さん(73)＝同＝の4人が、これまでの足跡を振り返るとともに、受章の喜びを語った。

「岐阜信用金庫に対して、いただいた章と柔和な表情を浮かべる住田裕綱さん」岐阜市神田町、同金庫本部



旭日小綬章・金融業功労

元岐阜信用金庫理事長

住田裕綱さん(73)

「皆さんのおかげで受章できたと感謝を述べる小野木孝二さん」岐阜市若宮町、トーカー本社



旭日小綬章・保健衛生功労

日本病院寝具協会理事長

小野木孝二さん(70)

「支えてくれた役員や家族に感謝したい」と喜びをかみしめる阿部義和さん」恵那市明智町

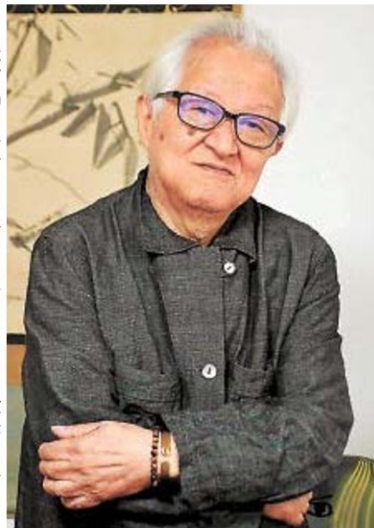


旭日小綬章・保健衛生功労

元県歯科医師会長

阿部義和さん(76)

受章を「これからの人生を大切に」という意味と受け止める土屋禮一さん」東京都国分寺市



旭日中綬章・芸術文化功労

日本画家

土屋禮一さん(79)

養老の自然 絵筆後押し

「これまでの功績というより、これからの活動に期待している意味だと受け止めている。師に教えや激励を受けたよう」と喜ぶ。日本芸術院会員、日展副理事長を務める。画業を振り返り、代表作に挙げるのは令和の皇位

古里・養老郡養老町を離れて約60年になるが、絵筆を後押しするのは養老や岐阜の自然という。「海外でも、何か養老を思い出させる匂い、懐かしさを感じた時に描きたくなる」。「好きな仕事をして生きてきた幸せを実感する。もつすく80歳だが、年齢はプレゼントだ」と精進に余念がない。東京都国分寺市北町。

高齢者の口腔ケア推進

歯科医として47年間、地域医療に貢献。2013年6月から今年6月までは県歯科医師会長の重責を担った。「大変光栄。支えてくれた役員や家族に感謝したい」としみじみ語る。1978年に古里で阿部歯科医院を開業。休日診療や訪問診

シタル化を実現、県内全ての市町村で受診可能な体制を整えた。超高齢社会を迎える中、へき地診療が大きな課題と指摘する。「都市部に歯科医が集中している。歯と口の健康は全身の健康にも影響する。健康寿命を延ばすためには、口腔ケアが重要だと広く伝えていきたい」。恵那市明智町。

衛生管理の向上に尽力

2004年から14年間、協会の副理事長を務め、18年から現職。病院寝具類や病衣の品質向上、衛生管理の研究、業界従業員の人材育成などに努め、業界の発展に貢献してきた。「皆さんの支援のおかげで受章できた」と謙遜する。

高度な衛生管理ニーズにこたえ、商品の品質を維持するため、衛生自主基準を策定。会員の洗濯工場で年2回の検査を実施し、安全で清潔な寝具が提供できる体制を構築した。また災害などで会員業者が納品できなかった場合、他会員が協力して

地域経済の発展に貢献

入庫から49年。「身に余る光栄。私一人に与えられたのではなく、地域経済の発展に貢献してきた岐阜信用金庫に対する称賛、励みであると受け止めている」と控えめに喜ぶ。金融マン人生の多くは営業店で融資畑を歩んだ。「自転車や

カブ(原動機付き自転車)で走り回った。車で回ったら効率が悪くてね」と笑顔で振り返る。先輩から「地域に必要とされる存在になるように」と学び、管理職になってからは後輩にそう教えてきた。2016年から6年間理事長を務め、現在は相談役。岐阜市のJR岐阜駅前の繊維問屋街や繁華街・柳ヶ瀬商店街の栄枯盛衰、バブル崩壊など時代の移り変わりを見てきた。「取り巻く環境は速いスピードで変化しているが、いつの時代も身近で親しみやすい地域金融機関でありたい。そのように後輩を応援していければ」。岐阜市六条南。